

小学六年

国語

解答と解説

1

問一	ウ	21
問二	ア	22
問三	i	23
	イ	24
	ii	25
	ア	26
	iii	27
	オ	28
問四	③	29
	イ	30
	⑤	31
	エ	32
		33
		34

問八			
が	る	自	給
ず	藤	分	食
っ	井	と	を
と	礼	同	食
屈	斗	様	べ
辱	に	に	ら
だ	同	嫌	れ
と	情	が	な
感	さ	ら	く
じ	れ	せ	さ
た	る	を	れ
か	こ	さ	る
ら	と	れ	よ
。	の	て	り
	方	い	、

2

問一	ア	
	イ	
	ウ	
	エ	
	オ	37
問二	1	38
	エ	39
	2	40
	ウ	41
	3	
	ア	
問三	エ	

問九	エ	35
問十	自	
	分	
	を	
	変	
	え	
	た	
	い	36

	5	4	3			
⑥	①	①	①	問九	問七	問四
討議	胃腸	冬	ウ	道	金科	1
		②	②	さ	玉	イ
65	60	55	50	れ	条	2
⑦	②	夏	ア	ま	問八	こ
総額	工賃	③	③	し	46	こ
		56	51	た	場	か
66	61	57	52	。	合	ら
⑧	③	秋	オ	。	に	わ
貯留	弁論	⑤	⑤	問十	よ	43
		58	53	工	つ	問五
67	62	59	54	48	47	何
⑨	④	冬	イ			も
治	養蚕					考
						え
68	63					ず
⑩	⑤					問六
委	武将					ウ
69	64					45

(配点)

{ ①〔問三〕各2点、〔問四〕各3点、
 〔問八〕7点、他各5点 } 計150点
 { ②〔問二〕各2点、他各5点 }
 { ③④⑤各2点 }

【解説】

1 草野たきの『最高のともだち』（講談社）から出題しました。

周囲の人はどう思われるかをあまり気にせず思ったままを口にするため嫌われている菜摘が、自分と同じように嫌われている藤井礼斗（ライト）と出会い、心に変化が生じた場面が描かれています。

問一 B1 関係づけ 比較

1 ページ上段には、小学六年生の頃の菜摘が①であったこと、そのことに自分では気づいていなかったこと、ライトに秘密を見抜かれたことをきっかけに自分が変わったこと、などが書かれています。「秘密」とは、本文後半に出てくる「スーザン」のことだと考えられます。それまでの菜摘は、歯に衣着せぬ発言をくり返し、周囲の人から嫌われても別に構わない、という態度を取り続けていました。そのせいで嫌がらせをされていましたが気にしていない風を装い、実際には心の中にいつも連れてきていた「スーザン」に苦しい気持ちを肩代わりして泣いてもらっていました。このような菜摘の状況を表すのに最も適しているのは、ウの「孤独」です。

問二 B1 具体化 比較

この場面は高校生になった菜摘が小学六年生の頃を思い出している場面です。華に嫌がらせをされて給食を食べられなくされた菜摘は、一人で体育倉庫わきの小さいベンチで気持ちを落ち着かせていました。そこへ藤井礼斗がやってきて自分のパンを食べるように言うのですが、最初菜摘は反発しま

す。もともと自分と同じように男子から嫌われていた藤井礼斗に対し、「私はあんたとは、違うの」と考え、同情されたくないと考えていた菜摘ですが、自分の心の中が見えているかのような藤井礼斗の行動に、いつの間にか「仲良くなってもいいかも」と気持ちを变えています。その後、本文冒頭に「ライトに夢中になった」「神様を慕うように」とあるように、すつかりライトに心をうばわれています。これらをふまえて選択肢を検討すると、アが正解であるとわかります。イ「あこがれを持つようになってから」、ウ「共に嫌がらせを乗り越える仲間」、エ「自分に夢中になって」がそれぞれ誤っています。

問三 B1 関係づけ 比較

ii 適当な副詞を空らんに入れる問題です。
i この場面では、菜摘の下駄箱の中で上履きが泥だらけになっています。菜摘にとっては何度もやられているような嫌がらせの一つのようで、「ああ、またか」という余裕のある反応を見せています。したがって、イ「クスリと」が入ります。

ii 直前で華にぶつかられ、菜摘の給食はすべてコンソメスープでビタビタになってしまっています。「〜食べなくてすんだ。ありがとね」と強がって言いはしたものの、直後で「気持ちを落ち着かせていた」とあることから、心中はおだやかでなかったことがわかります。早くその場から立ち去りたいという気持ちであることを考えると、ア「さつさと」が入ります。

iii 藤井礼斗から自分の分のパンを食べれば？ と言われた菜摘は「冗談じゃない」「同情なんてやめてよね」と拒絶しています。それに構わず礼斗が「大丈夫？」と続けていることと、直前の「ますます」という表現を合わせて考えると、オ「ムツと」が入ります。

問四

A2 知識 比較

語句の意味を答える問題です。辞書の意味をもとにして、文章中の意味をとらえましょう。辞書的な意味を外れたものは解答にはなりません。知らなかった言葉は辞書で調べて覚え直しておきましょう。

③「すつとんきょう」は漢字で「素つ頓狂」と書き、間が抜けている様子や調子はずれな言動をする様子を表す言葉です。この場面では、華の「えーっ、なんで？」というわざとらしい応答の仕方について「すつとんきょう(な声)」という表現が使われています。

⑤「エスカレート」は物事の程度が少しずつ増大したり激化したりすることを表す言葉です。怒りや要求について使われることの多い表現です。

問五

B2 理由 比較

菜摘が陽気になった直接の原因は、華とその子分たちがないにも言わずに自分から離れていったことにあります。嫌がらせをされたにもかかわらず泣いたり悔しがりたりせず、それどころか自分には才能があるから特別なことが起こるのかも

しれない、と言ったのけた菜摘を見た華たちは、期待が外れて拍子ぬけた感じになっています。また、この反応は菜摘が「怒ったり、悔しそうにしたり、ましてや泣きそうな顔をしたらしたら負け」と考え、自分なりに感情をおさえて何もなかったかのようにふるまった結果であると考えられると、そのように行動できた自分に満足して陽気になっているとも考えられます。以上のことから、イとエが正解となります。ア「華たちと仲良くなれるような気がした」、ウ「華たちに認めさせることができた」、オ「嫌がらせが止まるはずだと確信を持てた」がそれぞれ誤っています。

問六

B1 関係つけ

⑥「直前に」ともともと、私はクラスの女子から嫌われている」とあります。これに続いて次の文では「幼稚園の頃」のエピソードが語られており、ずいぶん前から菜摘が周囲の人たちに嫌われていることが読み取れます。直後に「から」という時間を表す言葉があることを合わせると、⑥には「昔、以前」というニュアンスの言葉が入ることがわかります。設問の条件に従って★以降で「昔、以前」の話を探すと、4ページ上段の「スーザン」と出会った時のことを思い出し、ている場面が当てはまります。この場面の「小さいとき」が字数やつながりの条件をすべて満たしています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 **B1** 具体化 比較

菜摘は「食べなくてすんだ」と言っただけですが、直後で「大丈夫。お昼なんて食べなくても、死なないし」と言っており、本心から「食べたくなかったからちようどよい」と思っているわけではないことが読み取れます。嫌がらせをされなかつたら給食を食べたかったわけなので、そのことが実際の行動に表れていると意識して読み進めましょう。4ページ下段で藤井礼斗からパンを受け取った菜摘が、ベンチに座り直してからパンを食べています。したがって、「私は再びベンチに腰かけると、そのパンにかじりついた」という一文が正解となります。直前の「私は立ち上がると、藤井礼斗から、パンを受け取った」も同じような気持ちの表れた行動であるといえますが、実際にパンにかじりついている場面の方がよりはつきりと気持ちを表しているといえるでしょう。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 **B2** 理由 推論

——線⑨直後で菜摘は「なに、私のこと、可哀そうとか思ってたわけ?」「冗談じゃない」「私はあんたとは、違うの。同情なんてやめてよね」と考えています。自分と同じように周囲から嫌われている藤井礼斗に同情されたことを、菜摘は「屈辱」だと感じているのです。「同情されることの方をより屈辱に感じている」という要素と、同情をしてきたのが「自分と同じように嫌がらせをされている藤井礼斗である」という要素を盛りこんでまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解

とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問九 **B1** 具体化 比較

この場面で、藤井礼斗は「スーザン」の存在をはつきりと認識しているわけではありません。ただし、実際に涙を流しているもの、菜摘が心の中では嫌がらせを受けていやな気持ちになり、見えない涙を流している、ということは感じ取っています。以上のことから、エが正解となります。ア「同情している」、イ「スーザンが泣く様子が自分には見える」、ウ「自分も泣きそうな気分になっている」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 具体化 関係づけ

◎の文の空欄直後に「〜という気持ちを持ち始める」とあります。ここから、空欄には菜摘がそれまで持っていなかった気持ちが入ることがわかります。これまで人から嫌われても別に構わないと考え、ありのままの「私」でいたい、と考えている菜摘の様子は、2ページ下段に書かれています。この場面から、字数とつながりを考えて「自分を変えたい」が答えとなります。また、——線⑩の直前に「仲良くなりたい」という七字の表現がありますが、こちらは空欄の前後の内容に対応していないため、不正解となります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 中屋敷均の『わからない世界と向き合うために』(筑摩書房)

から出題しました。

液体の水が性質を維持しつつそのしなやかさで様々な場所に入り込み、地球に豊富に存在するようになったことで生命の誕生が促されたというエピソードから、秩序の維持と個人の裁量をいかにバランスよく保った社会を作るか、という話が展開されています。両者のつながりを意識しながら読み進めましょう。

問一 B1 具体化 比較

水の特徴は、7ページ上段に書かれています。この部分とていねいに照らし合わせながら、選択肢を検討していきましょう。ア・イ・オの三つが本文に書かれた内容と一致しています。ウは液体の水ではなく固体の水の特徴、エは気体の水蒸気の特徴であり、水の特徴ではありません。

問二 B1 関係づけ 比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。前後の内容どうしのつながりに着目し、接続詞そのものの働きと合わせてふさわしいものを選びましょう。

《1》の直前では、水の一つ目の特徴が説明されており、直後に二つ目の特徴が説明されています。並列の形になっていますから、エ「また」が入ります。

《2》の直前には、一から自分で考えた場合に、買い食いしても良い、黒の靴下をはいても良い、と考える人が出てくるということが書かれています。これに対し直後では、

「そんな人を認めていたら秩序の崩壊です」と指摘されています。前後で逆の内容が書かれていますから、ウ「しかし」が入ります。

《3》の直前には、「与えられたルールに何も疑いをもたないことが、本当に社会の構成員としてなすべきことなのか、考える必要があるように思えます」と書かれています。直後からその具体例として赤信号の話が書かれています。したがって、例示を表すア「たとえば」が入ります。

問三 B1 具体化 比較

線②と同じ段落の指示語前後の部分を確認すると、「そんな教育」は世界の中では異端である日本の教育を指しており、「正解」を一から考え直し、自分なりの答えを見つけていることは想定されていないか、かなり疎かにされている」という部分を受けていることがわかります。したがって、エが正解となります。ア「解決法がない課題に取り組ませ」、イ「自らの頭で考えて試行錯誤を繰り返し」、ウ「自力で批判的に考える姿勢」がそれぞれ誤っています。

問四

1 B1 具体化 比較

筆者が校則への不満を先生に投げかけたところ、納得のいくような解答は得られず、クラスメートからも「買い食い本当に悪いことだとは思わないけど、校則である以上、守るべきだ」と言われたことが書かれています。自分の頭で考え、「校則はおかしいのではないか」と疑問を投げかけたのに、良

い結果は得られなかつたわけです。したがって、イが正解となります。ア「潔く引き下がらなければならぬ」、ウ「理不尽にねじふせられることがあり得る」、エ「社会的なルールを変える力を持たなければならない」がそれぞれ誤っています。

2 **B1** 抽象化

筆者がこの体験から理解したことは、8ページ下段の「ここからわかることは」以下にまとめられています。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問五 **B1** 理由 関係づけ

「どうして日本人はマスクを外せないのか」という話題について、筆者は「穿った見方かもしれませんが」と前置きして、「自分の頭で考えない」教育の成果である可能性はないでしょうか？」と問題提起しています。そのような教育の結果身についた「国民性」とは何かを意識して読み進めると、9ページ上段に「自分で考えるより、何も考えずルールに従った方が楽」という表現が見つかります。字数やつながりを考え、この部分が正解となります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問六 **B1** 具体化 比較

9ページ上段の前半で、筆者は「与えられたルールに何も疑いをもたないことが、本当に社会の構成員としてなすべき

ことなのか、考える必要もあるように思います」と述べています。——線⑤はそれに続く具体例の部分で、アメリカやイギリスで「与えられたルールに疑いを持って自分で責任を持って行動する」様子が示されています。したがって、ウが正解となります。ア「日本社会より優れている」、イ「日本社会の方が過ごしやすい」、エ「修正すべきところがある」がそれぞれ誤っています。

問七 **A2** 知識 比較

⑥は、ルールを「必ず守るべきもの」として大事に扱っている様子を指しています。したがって、「金科玉条」が正解となります。

問八 **B1** 具体化 関係づけ

本文前半に書かれていたように、水は固体と気体の中間で、性質を維持しながら高い自由度を持っています。このことをたとえに用いて、筆者は「個人の裁量」と「秩序の重視」をともに成り立たせることを主張しています。どちらかが大切なのではなく、どちらも大切で時と場合にに応じて使い分けることが必要だ、というのが筆者の意見です。したがって、9ページ下段の「場合によってきちんと使い分けられる」が正解となります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問九 **B1** 関係づけ

ぬけている文をもとの場所にもどす問題です。指示語や接

読語、キーワードに注目して、ぬけている文と内容的に近い内容が書かれている部分を探しましょう。また、実際に文をもどして読み直し、内容的にふさわしいかどうかを確認しておきましょう。

ここでは、「冷静で秩序だった行動」「世界からの称賛を受け」という表現に注目し、日本人が秩序を重んじる様子が書かれた部分を探すこととなります。8ページ下段の「東日本大震災」の話題で「『報道されました。』の後に入ります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問十

B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。選択肢の内容と本文のどの部分に対応しているのかを考え、必ず本文と照らし合わせて正誤を検討しましょう。

エの内容は本文後半の欧米型社会（個人の裁量が大きい社会）と日本の社会（秩序を重視する社会）の対比において書かれている内容と合っています。これが正解となります。

ア「それぞれの状態で」、イ「欧米の教育から大きくおこなれている」、ウ「社会的なルールをより合理的なものに変化させることが可能になる」は、それぞれ本文に書かれている内容と一致しません。

3

A1 知識

ことわざ・慣用句と反対の意味のものを選ぶ問題です。言葉の知識は膨大ですから、一つ一つやみくもに覚えるのではなく、同じ意味のもの、反対の意味のものなど、組み合わせ

て覚えておくようにしましょう。

4

A1 知識

俳句の季語から季節を答える問題です。基本的には生活感覚と合わせて考えればよいですが、「朝顔」「七夕」「すいか」のように（すべて夏のイメージが強いかもしれませんが、秋の季語です）旧暦に基づいた季節感が優先されているものもありますから、注意して覚えておきましょう。